

## 編集後記 From Editor



初夏の京都・鴨川にて

沖繩を皮切りに、夏の高校野球がはじまっている。今年は春の選抜大会の後、裏金問題と、それに端を発した特待生問題で大揺れに揺れた高校野球界であった。一連の問題を考えてみると、裏金については是非を議論する余地は無く、厳正な対処が必要であろうが、どうも特待生問題の裏に隠れてしまっているのではないかと気がする。特待生制度については、制度を全面的に否定するものではないと思うが、内容や運用の改善は必要であろう。さらに思うのは、これらの問題は当の高校生ではなく、むしろ取り巻く大人の責任ではないのかという点である。夏の大会のシーズンを迎え、そんなことを感じている。

選手には「強豪校で腕を磨き甲子園に出たい」、「プロ野球選手への道筋をつけたい」といった願望もある。あるいは経済的な理由で、特待生でなければ強豪私学には行けないという選手もいる。特待生制度は、その選手たちのためには有益であり、自由度の高まった今の社会では、存在自体は否定されるべきものではないと思う。しかし、現状のように、学校知名度向上のための選手争奪戦のツールとしての利用を一義的に考えるから、歪んだ、行き過ぎたものになると思う。制度内容や運用には改善が必要であろう。思いつきだが、各校共通の制度内容、制度導入校の公開、ルール遵守状況の厳正なチェック等が改善の方向性ではないかと思う。

そして、この問題で感じるのは、全て周りの関係者の論理や都合で動いているという点である。当の本人である選手は、むしろそれに乗せられている感がある。学校経営のためやチーム強化のために、水面下で不透明な争奪戦を繰り返す。確かにビジネス上は非常に効果的かもしれないが、そこには選手の希望に込めるといふ発想は感じられない。しかも対象となる選手は、中学生や高校生といった、まだまだ社会的に未熟な子どもたちである。大人が自分の利益のために、本来、手本を見せ、一生懸命に教育すべき子どもたちを操りながらやっていることが最大の問題である。

今号で取り上げた食育の問題にしても、それを必要としているのは子どもであるが、そういう状況になったのは親をはじめとする大人の責任であり、改善すべきは大人の行動である。子どもの生活態度の問題、道徳心欠如の問題も同様な構造であると思う。高校野球を舞台とした一連の問題もこれと共通しており、大人こそ姿勢を改めることが必須だと思ふ。

——橋本佳也

表紙・裏表紙写真 大阪ガスが昨年実施した、調理による脳の活性化を確認する実験「親子クッキングコミュニケーション」での調理体験の様子

### CEL 81号 特集 ■ 食育の時代と家庭の食卓

発行●平成19年6月30日 頒価1,000円(送料別途)

■発行 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 (CEL)  
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2

■発行人 真名子敦司 *Atsushi Manago*

■編集人 橋本佳也 *Yoshinari Hasbimoto* / 弘本由香里 *Yukari Hiromoto*

編集●関西ビジネスインフォメーション(株)内 CEL編集室  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18  
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2307

印刷・製本●日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY AND LIFE © 2007 OSAKA GAS CO.,LTD.

禁無断転載複写

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。

本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ (<http://www.osakagas.co.jp/cel/>) でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2307 Fax.06-4803-2210 cel@kbicom.net まで